

フリットモ

鹿児島版

発行先: 文化圏の地域の魅力づくり 実行委員会(KCIC)内
 監修: あいだ だいや
 協力: 青森・鹿児島の皆さん

AOMORI
KAGOSHIMA

「鹿児島の人々にとって、桜島は、ある種のキャラクター」



【質問】 青森 > 鹿児島
 灰って、どの程度の頻度で降るのでしょうか？

鹿児島 警戒レベルが下がってからのもの、すっかり大人しくなった桜島。警戒レベルが上がる前までは、元気があって毎日何度も大きな噴火をしていました〜生きてるのでいろいろですね。

青森 噴火する時って「ドカン」と鳴ったりするのですか？噴火の規模にもよると思いますが…

鹿児島 その通りです！空振もあり、音もスゴイ時があります。警戒レベルが上がる前の頃は、地下が鳴動していたそうです。

鹿児島 「ドカン」という音に鹿児島人は慣れていて、普通に「あら、爆発したな」という感じですが、以前ホテルにとまっていた時に、

隣の県外から来ていたらしい人が、夜中の爆発にあわててベランダに出ていたのを思い出します…

鹿児島 高校生の頃(20年くらい前?)は鹿児島市内に出るたびに、砂嵐みたいで、白いシャツがビンドットシャツになっちゃってました。

あいだ 鹿児島の人たちの桜島に対する愛情が伝わってくるような言葉ですね。「大人しい」「元気だなー」など。桜島という山は、ある種のキャラクターのような扱いになるのかもしれない。

【質問】 青森、鹿児島 両方の皆様へ
 「これって、他の地域では見たことないかも」という特殊な機械や、機材、道具ってありますか？

青森 青森の冬の基本。ロータリー車。この象の鼻先みたいなところから、道路を掻いた雪がパッサーってできます。(写真は昨年の2月に雪のイベント時のものです。2月なのに、まさかの雪なし！)

あいだ 雪が降る時は毎晩中じゅう走ってますよね。夜間に黙々と除雪しているのを、ひっそり憧れる小学生とかが居そうですね。



鹿児島 鹿児島は、降灰がひどいと、ロードスイーパーが出勤します。灰を吸い上げ、そのあと灰がまき上がらないように、散水車が水を撒いていきます。

青森 青森も春先は除雪機が削り取ったアスファルトの粉を同じ特殊車両で掻き集めています。

あいだ 同じ車両が活躍することもあるんだ！

青森「克灰袋：名前が強そうだ！」

【質問】 青森 > 鹿児島
 青森では積もり積もった雪は、川に流したり、トラックに山盛り積んで海に捨てに行ったりするのですが、火山灰は最終的にどのように処理するのですか？

鹿児島 鹿児島市民には克灰袋というのが配られるので、掃除して集めた灰はそれに入れて所定の場所に置くとか回収して、処理場に埋め立てられます。

雨で流れたものは錦江湾(鹿児島湾)の海底に溜まっています(笑)その下に燃え流るマグマがあるので原点回帰的な循環です(笑)

青森 克灰袋…名前が強そうだ…火山灰は何かから利用できないものなのですか？

青森 埋め立てですか。たまった灰や埋め立てた灰で東京の埋め立て地、「ゴミの島」のような「灰の島」みたいなものはないのですか？

鹿児島 ないですね〜。結構な量ですが、鹿児島は野山が多いので(笑) 掃除が必要な場所は所謂舗装された所やコンクリートの場所だけで、地面に降ったものはそのまま大地の一部になっていきます。

青森 全てが化粧品やシャンプーに利用されたら鹿児島県民美人増進計画。青森は雪を利用してりんごや人参を保存しますよ！旨味をあげて付加価値プラスで販売してますよ〜



上: 灰の集積場 下: 土石流を錦江湾へ流す水無川



鹿児島 火山灰は化粧品とか外壁の塗装材に使われていたりするみたいです。克灰袋などで集められるものは土やゴミなども混ざっているのでも使いづらく、ビルの屋上など不純物の少ないところで取れた灰が重宝されるようです。

鹿児島 甲子園の土とか、北海道では融雪剤としても使われている!とか。

鹿児島 鹿児島のお土産品として灰の缶詰とかもありました。他にも灰を西郷さんや、ウルトラマンの形に固めた人形なども販売しているようです。

あいだ 灰の再利用って、鹿児島の人にはどのくらい浸透してるといえるかな。缶詰めや人形は常識?

鹿児島 はい(笑) 人気ですよ! ワークショップもやってます☆

青森 灰の缶詰やら人形やら面白いですね…ところで、ウルトラマンと鹿児島って何か関係あるんですか???

【質問】 鹿児島さま、青森さまへ
 傘って役に立ちますか? たくさん降るときに出掛けないといけないときはどうするんですか? よろしくお祈りします。

青森 わたしは雪の時は傘さしません。カラダに積もった雪は払えば落ちるので。(積った雪の時は傘をさす時もまれにあります)あと基本車移動でドア1ドアなので傘が必要な場面がありません…ちなみに傘は「かぶる」って言います。

鹿児島 わたしは傘をさしますねー。でも灰は舞い上がるから結果的に吸っちゃう。ドカ灰(大量の灰)の日は、我慢して出かけるしかない。夜、お風呂に入るまでの我慢。最近はマスクする人も見かけるけど…

鹿児島 わたしも傘をさします。灰雨が降るとグレーの点々が洋服について落ちません。

あいだ いまのところ、鹿児島=カサをさす/青森=カサをささないという構図ですね。鹿児島市内において、ドカ灰の日には傘をさす人を見かけるのは、普通って感じでしょうか? 「県外から来たんだね」という感じなのかも、と想像しています。面白いです。

鹿児島 ドカ灰でなくても、灰が降っている日は傘をさす人が多いですよ〜。二輪車用の

灰除けゴーグルもあります(笑)

あいだ 「灰の日は傘」というのは、結構ポピュラーなんですね。灰除けゴーグルというのは初めて知りました。僕もバイクに乗りますが、確かに灰が降っている時に裸眼でバイクに乗るのは、危険だと思います。

青森 傘はかぶりません…県外からかどくは、傘と歩行で判断しています。

青森 雪の時、傘はささなかったです。危険な事も多いからかな? 傘に雪が積もって前が見えない。吹雪くと飛ばされる(汗)雪道は滑って転びやすいetc… 猛吹雪の時、寒を通り越して痛い! 顔を真っ赤にしながら歩いてました。

あいだ 確かに、青森では、傘を持つのがかえって危険! ということがありますよね。「慣れれば全く転ばなくなる」ということも無いのかも、と想像しています。雪の場合は、建物に入る前に払えばOKだけど、鹿児島の火山灰だと、髪の毛の中に入り込んで、払っただけでは落ちなさそうですね。

青森 雪の時、傘をかぶると雨の時のように傘にあたる音がしないので違和感があるね。

あいだ 傘にあたる音も静かですが、そもそも降ったばかりの雪はふわふわしていて、音を吸収するからか、雪が降るときはとて



左上: 大規模な桜島の土木事業 右上: 島内の集落の中に点在する避難壕 下: 桜島と錦江湾

も静かな世界が広がりますよね。あの静かな感じがなんとも言えず好きです。

鹿児島 ドカ灰の降る日は傘をさします。灰によって音が違い面白いです。黒く重たい灰は

ザラザラザラ。白く軽い灰はポソポソ。あくまで主観ですが。

あいだ なるほど。その音は是非聞いてみたいですね。灰には白と黒があるというの驚きです!

「雪が降るのは年間100日くらい。少なくともその半分の50日は雪かきしてるかな…? 1日2回とか3回とかもあるし…」



鹿児島は植物の生命力の逞しさを感じる大地。南国らしい色彩の花、みかんも鈴なり

【質問】 鹿児島 > 青森
 雪かきは、年に何回必要ですか?

青森 年間100日くらいは雪がふつるようなので、少なくとも半分の50日は雪かきしてるのかな? 1日2回とか3回とかもあるし…いよいよそんな時期が到来間近です。

鹿児島 大変ですね。ご高齢の方々はどうされているんですか?

青森 高齢者の方もがんばって片づけてますよ。危険な屋根の雪下ろしはボランティアが活躍する場面もあります。

鹿児島 屋根は怖いですが、ボランティアさんの存在は心強いんですね。

青森 冬期間は、ほぼ毎日。朝昼晩だったりする日もあります。私は頑張りませんが、多くの家庭では主に「おかあさん」が雪かきするので、専用の「ママさんダンブ」というモノがあります。

鹿児島 青森のおかあさんはパワフルですね。南国生まれでよかった(笑); 「ママさんダンブ」って、ネーミングが素晴らしいです♪

青森 雪かき検定ってのもありますよ

青森 でも青森の人の「雪かきしなきゃ!」基準はすごく厳格だと思います。私なんかからみたら(在任歴14年)、「全然車で乗り越えられるじゃないか」とか、「このくらい放置していても問題ないんじゃないか」と思える量でも、丁寧にきっちり雪かきしてますよね。

青森 だから雪かきちゃんとしてないと近所で肩身が狭くなる(嘘)

(笑) みたいな顔されちゃうの…とはほ。

青森 近所のお年寄りの生存確認という側面も

青森 震災の時電気がつかなくて眠でやることがないって、おじさんたちが猛烈に雪かきしていましたね。

鹿児島 猛烈な雪かきって(笑); 鹿児島では、お墓の花が枯れていると肩身が狭い思いをします。生存確認という側面も似ていますね。

青森 生きている日常(雪かき)もそうですが…彼岸・お盆時期の墓に向かう交通量もおかしくなるとか、

あいだ 『全然車で乗り越えられるじゃないか』とか、「このくらい放置していても問題ないんじゃないか」と思える量でも、丁寧にきっちり雪かきしてますよね。』というのはとても面白いです。「雪を掻く」という行為は、実用的な行為以上の意味を、青森の人が持っている印象を受けました。「きっちりしてるよ」という自分自身(または周囲)への意思表示でしょうか。

特定の県というわけではないですが、「どこのお家もお庭が丁寧に手入れされているな」と思う地域があるのはたしかで、そういう生気の通った地域は、思わず足が赴いてしまいます。



左上: 大正噴火で埋もれた桜島の島屋 右上: 雪に埋もれる青森のお墓 下: 屋根のある鹿児島のお墓

続きはKCIC電子書籍をチェック! (詳細は裏面)



50
ARTS CROSSING

Kagoshima Cultural Information Center

Kagoshima Cultural Information Center

あいだだいのフリットモ

Artist Interview



手塚夏子さんに聞く「地域」と

鹿児島県の伝統・民俗芸能は、その独自性から国内外で高い評価を得ています。今年度KCICでは、日本各地とアジア圏で民俗芸能の調査を続けるダンサー／振付家の手塚夏子さんを招聘し、鹿児島市内に残る伝統・民俗芸能を素材としたリサーチ&プロセス型プロジェクトを始動しました。今回は手塚さんに鹿児島の印象や今後の展望についてうかがいました。

PROFILE

ダンサー／振付家

手塚 夏子 Natsuko Tezuka

神奈川県横浜市生まれ。福岡県糸島市在住。1996年よりマイムからダンスへと移行しつつ、既成のテクニクではないスタイルの試行錯誤をテーマに活動を続ける。2001年より自身の体を観察する「私的解剖実験シリーズ」始動。体の観察から人と人の関わりを観察まで視座を広げ、実験的な作品を発表している。2010年より民俗芸能を調査する試み「Asia Interactive Research」を始動。2011年には関連するプログラムとして民俗芸能調査クラブを立ち上げ、NPO法人STスポット横浜と共に継続して調査に取り組む。2013年に関東から福岡へ活動拠点を移す。

「伝統・民俗芸能」

Q1

なぜ民俗芸能をリサーチしているのですか？

関東の田舎のエリアに住んでいた頃、お囃子を目撃して、胸が高鳴ったんです。そのお囃子をどうしても自分でもやってみたくて、保存会の方に声をかけて習い始めたのがきっかけです。もともとダンスの活動をしてきて民俗芸能に触れる機会はほとんどなかったのですが、そういった近代化以前から脈々と続いてきたものに私はどうして今まで縁がなかったのか不思議に思うようになり、まずはいろいろ見て、触れて、感じたいと、リサーチするようになりました。当初からダンスの活動に役立てようと考えていたわけではありませんが、民俗芸能は一つひとつがとても刺激的で、結果的に創作活動にも深い影響を受けています。

Q2

鹿児島県の伝統芸能を見た感想は？

「中山町下虚無僧踊り」の練習では、地域の人々が横のつながりを大切に和気あいあいと取り組んでいて、子どもたちがその雰囲気の中で生き生きと練習している様子が熱くなりました。人々の底力を感じましたね。隠密に対して命がけで戦う農民の力強さ、連帯して自分たちを守るといった民衆の争う力や、過去のさまざまな歴史と今も繋がっているという凄みのようなものも感じました。また「花尾神社 秋の大祭」では、オープニングの消防隊の音楽がこれから少しずつ伝統芸能になっていくような予感があって面白かったです。芸能には「お上」に従って、あるいは「お上」に見せるように行うものと、自分たちの中で立ち上がってくるもの2種類があるように思いますが、今回見た鹿児島の芸能は前者の傾向を強く感じました。とはいえ、さまざまな歴史に翻弄されてきた形に落ち着いたものであって、ある時代には自治的な芸能であったり、また別の時代には「お上」に反発するような芸能であったり、また別の時代には「お上」に反発するような芸能であったり、今と違って、その真相を突き止めることはできませんが、さまざまな想像が膨らみます。

Q3

これまでリサーチされた地域と鹿児島県の伝統芸能の共通点、相違点は？

これまで数え切れないほどの地域をリサーチしてきたので一概にこうとは言えないのですが、共通点をあげるとすれば、沖縄の竹富島で見た芸能の形態にとても似ていると感じました。地理的にも歴史的にも関係が深いのだと想像しています。鹿児島の芸能はまだ少ししか見ていないので、相違点についてはこれから観察を続けていきたいと思っています。

Q4

まずは、鹿児島の印象は？

鹿児島県は他県と違って、近代化以前の雰囲気はまだ少し残っているように感じました。薩摩藩が強い統治力、政治力を発揮してきた長い歴史があるからかもしれない。一方、おしやれで独自の文化があったり、水族館がとても素敵なミッションを持っていたりと、強い意志を持った人々が新しいことを始める気風もあって、その両面が混ざり合っている不思議な土地だと感じました。

Q5

今後、鹿児島県でどのような展開ができそうですか？

いずれは即興歌や盆踊りを作るワークショップなどもやっていきたいです。さまざまなプロセスを経て、現代の鹿児島に生きる人々の中から湧き出てきた歌や踊り一つの芸能にまとめてみたいと考えています。



【写真】 左上：太平の獅子舞 左中央：中山町下虚無僧踊りの練習風景 左下2枚：西上の太鼓踊り 右下：花尾の太鼓踊り



Reborn Arts Traditional folk Art

KCIC BOOKS

2015年冬、KCICは3冊の電子書籍を発行します。

<http://www.kcic.jp/BOOKS>



かごしまのうわさプロジェクト (アーティスト 山本耕一郎) ドキュメント 編：かごしま文化情報センター (KCIC) スタッフ

2014年冬～15年夏に、アーティスト山本耕一郎氏と鹿児島市民が一緒になって実施した「かごしまのうわさプロジェクト」。百貨店や商店街を中心にサッカーやバスケットボールの試合会場などさまざまな場所を舞台に実施したプロジェクトがどのように展開したのか、携わった方々の言葉を通して紹介します。



アーティストシリーズ あいだだいや「フリットモ」

あいだ氏からの呼びかけを基にして描きだされる、鹿児島の「灰」と青森の「雪」をとりまく日常。各々の地に住む人々が自身の体験をもとに、ネット上でダイレクトに質問と回答を繰り返す。空から「降り積もる」灰と雪、それをとりまく普通の人々の生活が、特殊性に満ち溢れて描きだされます。



地域×アートシリーズ 「鹿児島市の伝統芸能リサーチと考察」(仮) 手塚夏子 著

日本各地・アジアの民俗芸能に関する独自の調査を続けているコンテンツホルダーダンサー・手塚夏子氏が鹿児島市を数度往たり訪れ、実際にいくつかの伝統芸能に触れ、リサーチを行いました。他地域との関連や独自性など、一人のアーティストの視点から鹿児島に伝わる芸能を眺めました。

今号の Arts Crossing のアートワーク面(表面)は、アーティストのあいだだいやさんとのコラボレーション。青森の雪と鹿児島の灰を巡り、2地域の日常を並行して描きました。

ARTIST PROFILE

会田 大也 (日本) Daiya Aida

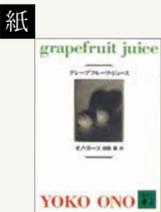
1976年東京生まれ。2000年東京造形大学造形学部デザイン学科造形計画専攻卒業。2003年情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 修了。学生時代より「価値」「メディア/コミュニケーション」という視点で作品発表を行なう。山口情報芸術センター就職後は教育普及担当としてコミュニティと文化をつなぐ場で活動し、オリジナルワークショップの開発なども行なう。一連のワークショップは、第6回キッズデザイン大賞を受賞。担当企画展示「コロガルパビリオン」が、第17回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品受賞。担当した「コロガル公園」シリーズは2014年度グッドデザイン賞を受賞。

- 2000 「信用ゲーム」展 NTT ICC (東京)
- 2006 「コネティング・ワールド」展 NTT ICC (東京)
- 2007 「金庫室のゲルシャイザー」展 広島アートプロジェクト
- 2008 「taxi/draw」展 せんだいメディアテーク
- 2014 「さつぽろアートステージ」展 札幌 他参加展覧会多数

ART WORK

寒い時期だからこそ、気持ちを温めてくれる書籍(紙/電子)をご紹介します。

KCIC book mark



グレープフルーツ・ジュース

著者/オノ・ヨーコ 翻訳/南風 権 発行/株式会社 講談社

現代美術家オノ・ヨーコの強さと優しく溢れる文章を収めた、あまりにも有名な詩集「グレープフルーツ」。1964年にわずか500部の東京限定版として出版されたものが1970年に英訳され、世界発売。その後、1993年にあらためて文章を再編集し、上田義典、M.HASUI や宮本隆司ら33名の写真家の作品とともに再版されたのが本書である。「想像しなさい」の一篇にインスピレーションを受け、名曲「イマジジー」が生まれたとジョン・レノンは語っている。最後は驚きの文章で締めくくられる1冊。寒い1日、世界に思いを馳せながら、心静かに読みたい。(Y)



グッドデザイン 2014-15

発行/グッドデザイン振興会

2010年秋に始まった、デザイン関連ジャンルコンテストの入賞作品を年度ごとにまとめた書籍。「ヘルペチカ」や「念殺」など、ウェブやチラシの制作に関する言葉を用いた、グッドと笑える川柳や俳句等が並び、「#(ハッシュタグ)グッドデザイン」をつけてツイッターで投稿すればコンテンツの応募作品になるという気軽な仕組みを使いながら、デザインに携わる人々の新しい現状を表現した風刺的な作品も多い。そのつづき(ツイッター)と内容のバランスが絶妙で、疲れた時に開きたい1冊。なお本書は、公益財団法人 日本デザイン振興会とは関係ない。(Y)

ローカルから発信する文化を通した街づくりをご紹介します。

Local + Art

額姪町石垣商店街空き家再生まちづくり「塩屋」を事例として

日本は人口増加の時代を終え、減少の時代に入っている。世界にも例のない状況の日本を「課題先進国」とポジティブに呼称することもある。そんな日本の地方は人口減少や少子高齢化が全体に比べて顕著であり、課題先進国のフロントラインと呼んでもいいのではないだろうか。多くの地域がそれぞれの課題に直面し、未来に向けて様々な取り組みをしている。そんな地方から文化を考える事例として、南九州市額姪町で行われているプロジェクトを紹介したい。

課題先進地とそこで活動する人たち

鹿児島市から50kmほど離れた南九州市額姪町。人口は1万人程度であり、お茶畑と薩摩富士・開聞岳が見えることなど風景が広がっており、都市部にはない豊かな資源があることがわかる。しかしながら額姪町も人口減少、少子高齢化などの問題が進行しているのが現状である。そんな課題先進地・額姪町で、地域の知恵を結集し時代に即した新たな地域づくりを目的として活動している団体がNPO法人額姪おこそ会(以下おこそ会)である。彼らは農業や観光を中心としたテーマに、まちづくりや特産品事業などの活動を行っている。2005年から任意団体としてスタートし、今年で10周年になる。活動の中心地として、町内にある釜蓋神社には観光客が年々増加し今年では年間5万人以上(2014年度調査)の観光客が来訪するようになっている。2014年には総務省選定地域自立活性化優良事例表彰を受賞するなど、地域で活動するNPO法人として実績ある



団体と言えるのではないだろうか。しかし、おこそ会のメンバーはこれまでの実績に満足することなく、やらなければならない課題が多くあると感じて今も活動している。

多様な関係ですすめるプロジェクト

彼らが現在着手しているのが観光客の町内回遊である。舞台は額姪町の中心部に位置する石垣商店街。かつては100軒もの商店が軒を連ねていた商店街は、今は商店数が半数以下になっており、釜蓋神社などの観光客増加の恩恵もなく、衰退の一途を辿っている状況だ。そんな商店街でおこそ会が取り組んでいるプロジェクトが「額姪町石垣商店街空き家再生まちづくり」。このプロジェクトは、額姪町の石垣商店街にある空き家(元は塩の販売店を営んでいた築100年以上の民家。以下、塩屋)を再生し、新たなコンテンツを導入することで、町内観光客の回遊性を高めるよう試みている。塩屋を皮切りに周辺の空き家を随時改修していく計画で、将来的には移住・定住につながるよう計画を練っている。プロジェクトは第一工業大学建築デザイン学科根本研究室が空き家改修の設計に携わっている。改修工事は学生を中心に、地元工務店、壁屋、おこそ会メンバーがサポートする形で実施された。また、改修計画の特徴の一つにあげられる装飾は、南九州市の役場など地域の施設で回収されたシュレッダー屑から作られた紙が貼られており、その紙は地域住民の手によって紙漉きされ、壁に貼り付けられている。また、電気工事も地域の技術者高等学校の生徒により実施された。加えて、改修工事と並行して住民参加型のワークショップが開かれ、改修後の利用方法などが検討されている。以上のように、このプロジェクトでは空き家の改修過程から地域の住民、地域外の有志などの多様な人たちが関わりながら進められている。改修工事やワークショップの現場で年功序列のようなヒエラルキーはなく、参加している人たちがフラットな関係になっている。

文化を育むフラットな関係

「まちづくりには余所者・若者・馬鹿が必要だ」というフレーズはまちづくりの現場によく耳にする。余所者が客観的な視点を与え、若者が地域を牽引し、馬鹿者が情熱的に行動を起こすことで地域にイノベーションが生まれるという意図で使われる。額姪町でのプロジェクトは、客観的な視点を与える人、地域を引っ張る人、情熱を持って行動を起こす人が揃っている。これに加えて地域住民たちが彼らの行動に興味を持ち、理解を示している気風も感じられる。年長者も若者もよくコミュニケーションをとり、良いアイデアがあればお互い取り入れあう風景がよく見られる。文化には「人類が理想を現実化していく、精神の活動」という意味もある。地域の文化とは多様な関係の人々が共通の目的に向けて、協働しながら成果を出していくことで育まれるのではないだろうか。額姪町のプロジェクトに関わる人々の関係はその精神活動の表れのように思う。長年人が住んできた地域において、多様なフラットな関係を作ること、一朝一夕ではできないものではないことは容易に想像できる。これまでその関係を作り上げてきたおこそ会の10年間の活動に敬意を評し、塩屋がもたらす効果に期待したい。(市村良平/KCIC)

<基本情報> [NPO法人額姪おこそ会] 住所:鹿児島県南九州市額姪町別府5202(いせびね内) 連絡先:0993-38-0100 公式ウェブサイト: <http://ei-okosokai.jimdo.com> [塩屋] 住所:鹿児島県南九州市額姪町別府358

